

農業・農村と

地域再生

Serial ①

農業・農村と地域再生

和歌山大学食農総合研究教育センター特任教員の阪井加寿子です。都市農村交流や移住・定住、農村（山村を含む。）の地域づくりをテーマに教育・研究活動を行っています。農村では都市部に比べ過疎化や高齢化がより一層進んでいます。最近「田園回帰」や「関係人口」などの農村へ向けられるまなざしが、若者の間にも見られるようになってきました。本シリーズでは、そのようなまなざしを受け止め、農業や農村の担い手に迎えて地域再生につなげようとする地域の住民や行政の取組を、大学のある和歌山の農村から取り上げていきたいと思います。初回は、地域再生が課題となってきた農業・農村の背景からみていきます。

長い間、農村は農業生産をベースに捉えられ、政策的にも食料の安定的供給を目的に農業政策が実施されてきました。しかし1990年代以降の海外農産物輸入拡大による食のグローバル化の浸透や国民

の食生活の変化のなかで、農業経営

は厳しさを増し、農家は経営安定化への模索が続いています。一方、課題地域としての農村は、「人」「土地」「むら」の空洞化により語られます。「人」の空洞化は、1960年代の高成長期以降の若者の都市への人口流出（社会減）やその後の高齢人口の自然減により農村の過疎化が常態化し、空き家も増加している状況です。また「土地」の空洞化は、過疎化や高齢化に起因して、1980年代より山間地及びその周辺の地理的条件の不利な中山間地域を中心に耕作放棄が増加し、鳥獣害も問題になっていく状況です。さらに「むら」の空洞化は、1990年代から農村集落の寄合や道普請などの集落活動が減少してきた状況で、この3つの空洞化は地域住民の気持ちの面にも影響を及ぼします。

しかしながら課題がある農村は、視点を変えると価値地域と映ります。農村は農業生産の現場という産業面の機能だけでなく、国土保全、水源

の涵養、自然環境の保全、美しい景

観の形成、農村文化の伝承などの多面的な機能があり、癒しや安らぎ、また新鮮・安全・安心な農産物直売を求める農村観光、体験交流による子どもの教育旅行の場であり、さらにコロナ禍では三密を避け、農村の「食」を求めてレストランやカフェへの来訪客が増加しました。

農村の価値は、そこで農業が行われ、住民が生活し集落を維持することで成り立ちますが、最近、農村に関心をもち、移住を希望する若者が増えています。「地域おこし協力隊」は国の制度で、2022年には全国で6,813人に増加しました。地域活動のサポート人材で、任期終了後は65%が同じ地域に定住しています。また、約7割は40歳未満の若者で、大学でも自身のスキルアップの就職先のひとつと考える学生がいます。次回からは地域再生に焦点を当て、農村で行われている住民や行政の取組を外部からの移住・関係人口も交えて見ていきます。

わだ い 浪 切 サ ロ ン

第151回



この不思議な国の ~歴史から見る皇帝と主席~

"超民主主義"とは？

- 話題提供者 和歌山大学 教育学部 教授 三品 英憲 氏
- 開催日時 2023年11月15日(水) 19:00 ~ 20:30
- 参加費 無料
- 開催方法/申込 南海浪切ホールでの対面講演とオンライン配信。QRコードからお申込ください。



講演内容など詳細は「和歌山大学 岸和田サテライト」のホームページでご確認ください。
お問合せ 和歌山大学岸和田サテライト TEL / FAX : 072-433-0875

岸和田サテライト

検索